

JAIC

大学・学生・企業をつなぐキャリア情報誌

キャリアのミカタ

2022.Aug Vol.29



大学職員様向けセミナー開催報告

「AI面接・自己PR動画」ってどうなの？

～最新トレンドとAIを活用した新しい学生支援サービスのご案内～

2022年8月23卒アンケート調査

就職活動の状況に関するアンケート調査

～インターンシップの参加状況～

「AI面接・自己PR動画」ってどうなの？ ～最新トレンドとAIを活用した新しい学生支援サービスのご案内～

「AI面接・自己PR動画」は、ニュースに取り上げられるなど、採用や面接対策のひとつの手段として活用され始めています。当社も今年5月に、AIを活用した就活生向けの面接練習アプリ「steach（ステーチ）」をリリースしました。今回は、AI面接など最新のトレンドや、1年半ほどかけて「steach」を開発する中で蓄積した情報をお伝えする機会として本セミナーを開催いたしました。セミナーの内容を抜粋してお伝えいたします。

■就職活動・採用活動のオンライン化状況

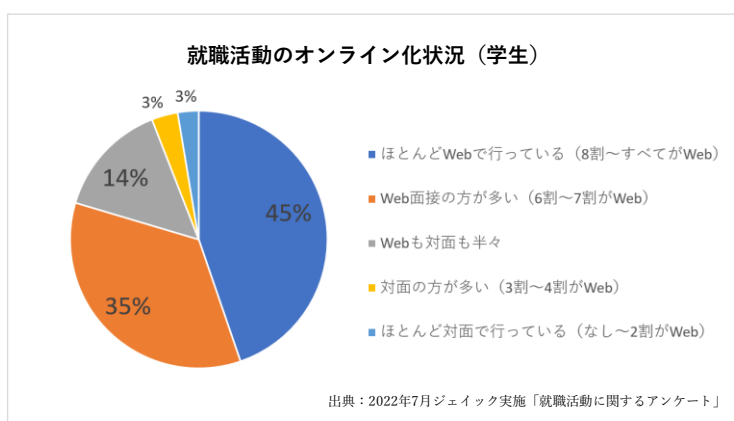
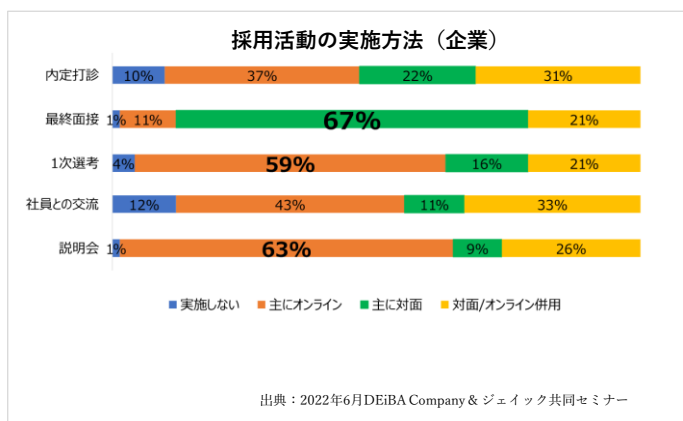
<企業>

企業に「採用活動の実施方法」について質問したところ、「説明会」「社員との交流」「1次選考」「内定打診」の4項目において「主にオンライン」の回答が最多となったことから、オンラインでの採用活動が主流となっていると言えます。一方で、最終面接においては「主に対面」の回答が最多となっています。「オンライン面接だけでは学生の人柄まではわかりにくいので、対面で会いたい」「自社の雰囲気を学生に伝える上でも、対面のほうが良い」といった思いから、最終面接のみ対面で実施する企業が多いことが伺えます。

<学生>

7月に弊社に登録している23卒学生に実施したアンケート調査で、就職活動のオンライン状況について質問したところ、「8割～すべてがWeb」または「6割～7割がWeb」と回答した学生が回答者の8割を占めました。

この2つのアンケート結果から、採用活動・就職活動のオンライン化は定着したと言え、今後は、「いかにオンラインでも質を高められるか？」ということがポイントとなり、質を高める1つの手段として、「AI面接・自己PR動画」が進んでいくことが予想されます。



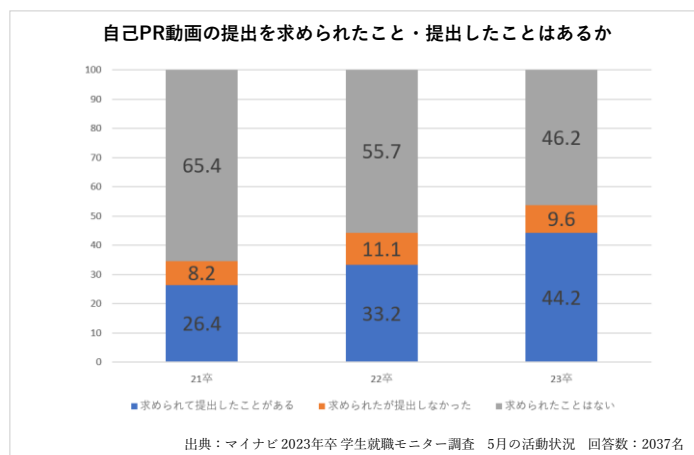
■AI面接・自己PR動画の活用状況と見解

では、実際にAI面接・自己PR動画は、採用活動・就職活動の中でどれくらい使われているのでしょうか。マイナビの「マイナビ 2023年卒 学生就職モニター調査 5月の活動状況」によると、「自己PR動画の提出を求められたこと・提出したことはあるか」の質問に対して、提出を求められたことのある学生は、21卒学生では34.6%でしたが、23卒学生では過半数を超える53.8%まで増加しています。

また、AI面接・自己PR動画の導入について、企業からは「採用活動を効率化できる」「書類(履歴書など)より人柄が分かりやすい」「コロナウイルスリスクの軽減」「地方学生へのアプローチがしやすい」「応募ハードルを下げる」「学生の、新しいことに取り組む姿勢やクリエイティビティを評価できる」などのメリットがあるという声があります。

一方で、精度についてはまだ課題がある状況です。現在の技術では、表情(画像解析)や声(音声解析)を主に分析しており、話している内容(自然言語処理)の分析の技術はまだ低く、精度の高い分析技術が実装されるには3～5年ほどかかると言われています。こうした課題への企業の対応策として、AI面接の落選結果の中から、選考に進めたい人がいないか再度確認するなど、最終的な判断は人事担当者が行うケースもあるようです。

また、AI面接によって落選とする場合、学生に対して落選理由(お見送り理由)を説明しづらい、といった理由からも、人事担当者が介入するケースもあるようです。



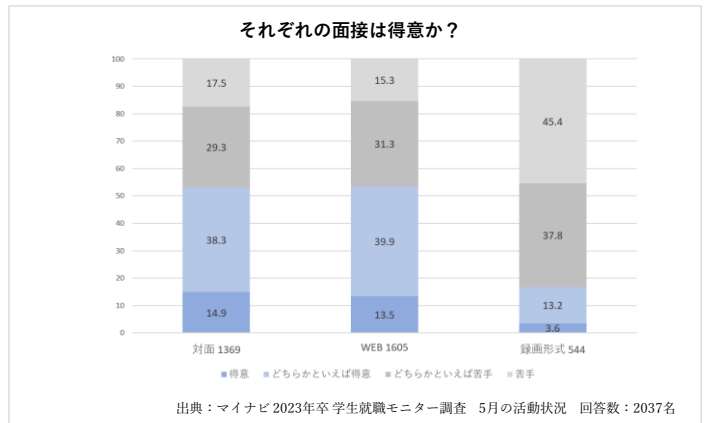
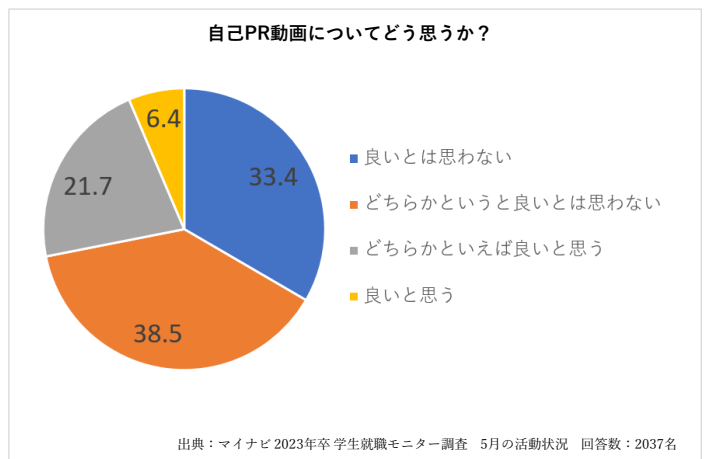
学生は選考中の自己PR動画についてどう感じているかという質問に対して、「良いとは思わない」「どちらかというとも良いとは思わない」の回答が合わせて71.9%となりました。

同調査の「自己PR動画の提出を求められた際、思ったことは？」の質問に対しては、「面倒だ」「動画ではなく面接で評価してほしい」「動画を撮ることが嫌だ、苦痛だ」の順で回答数が多く、総じて自己PR動画での選考の満足度は低いと言えます。面接官の反応から手ごたえを感じることができないため、通過理由や落選理由が明確でないことも、1つの不満要因と考えられます。

また、対面・WEB・録画形式、それぞれの面接は得意か？という質問に対して、「録画形式」においては「苦手」「どちらかというとも苦手」の回答が合わせて83.2%と、苦手と回答する学生が大多数という結果になりました。

AI面接や自己PR動画は、企業にとっては「採用活動の効率化」「エントリーの最大化（応募ハードルを下げる）」「感染症対策」などメリットがある一方で、学生にとっては「苦手意識がある」「しっかりとコミュニケーションを交わした上で評価してほしい」など、あまり肯定的ではない意見が目立ちます。

現時点では精度面での懸念もありますが、採用活動・就職活動のオンライン化が進み、場所や時間などの制約を超えてエントリーができる今、人事担当が良い人材を少ない時間で採用するための手段として、今後活用されていくでしょう。



■AIによる面接練習アプリ「steach」のご案内

「steach」とは、株式会社エフィシエント（本社：横浜市西区、代表取締役社長：脇坂健一郎）と弊社が共同開発した、AIを活用した面接練習アプリです。2022年5月にリリースし現在約1,500ダウンロードされています。就職支援を行う中で、第一印象で損をしている学生や、言葉遣いを含めて場慣れしていない学生、自己PRしか準備しておらず、他の質問に対応できない学生に多数出会うことから、手軽に面接練習ができるアプリをリリースしたいと考え、「steach」を開発しました。

【利用者の声】

- ・steachは、隙間時間に、誰かに依頼することなく繰り返し練習できるのが良かったです。そのあと人と練習する機会もあったのですが、「良くなっている」と言ってもらえて、面接力が上がったのを実感しました。
- ・「面接官モード」で実際の面接に近い形で練習が積めたので1週間で自分でも見違えるほど変わることが出来ました。
- ・苦手意識があった表情だけでなく、話し方の癖などの課題にも気づくことができ、使い続けたことで点数が上がり自信がついていきました。絶対就職してやろうという気持ちになりましたね。
- ・文字起こし機能は精度が高く、面接官と本当に話しているような文章に改善できたのも良かったです。

ご紹介した以外に、改善の声もいただいております。お声をもとに、より使いやすいアプリとなるように開発を進めております。

いかがでしたでしょうか？今回は、AI面接・自己PR動画のトレンド情報のご紹介をさせていただきました。セミナーでは、本誌でご紹介した以外に、「AI面接・自己PR動画の対策のポイント」「AIツールを学生指導に用いるポイント」などについてもご紹介しております。下記URLよりセミナーの動画を視聴できますので、ご興味がありましたら是非ご覧ください。

動画URL→<https://youtu.be/aAw5jcCL63I>



<特徴>

1. 自撮りで簡単に面接練習ができる
2. AI診断で課題が明確になる（※5つの指標で5段階評価）
3. 自動で面接内容を文字起こしできる
4. 質問項目が約50項目あり、様々な質問の面接練習ができる
5. 3つの練習モードで自身のレベルに合わせた練習ができる
 - ・自身で入力したテキストを見ながら話すモード
 - ・自身の表情を見ながら話すモード
 - ・面接官を見立てた画像を表示しながら話すモード

【実証実験にご協力いただける大学様を募集しています】

steachにご興味を持って頂いた大学様の中で、学内で活用できるシステムの開発にご協力いただける大学様を募集します。実証実験中は、steachの機能や使い方といった技術面だけでなく、steachを活用した面接対策セミナーの企画など実務面のサポートもさせていただきますので、お気軽にご相談ください。「どのような機能が追加されると就職指導・面接指導で活用できるか」など、ご意見をいただけますと幸いです。

期間：3か月程度

費用：無料

実証実験のステップ：

①テストIDの発行（職員様向け）

②実証実験テーマ決定

③実証実験開始

④効果検証

お問い合わせ先：柳井田（やないだ） steach@jaic-g.com

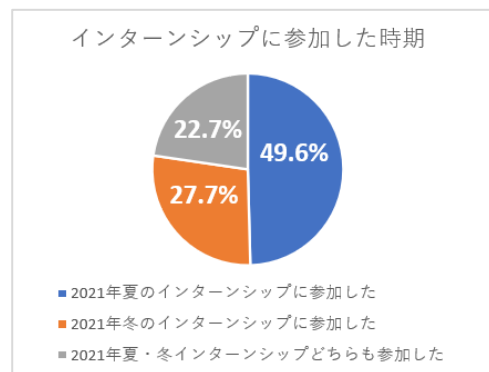
就職活動の状況に関するアンケート調査

2022年8月3日～8月7日に、23卒の学生に対して「就職活動の状況に関するアンケート」を実施し、インターンシップの参加状況に関する調査を行いました。今回は、その結果をお伝えいたします。

※就職活動に関するアンケート 回答数：280件 期間：2022年8月3日～2022年8月7日

■インターンシップ参加状況／参加した時期について

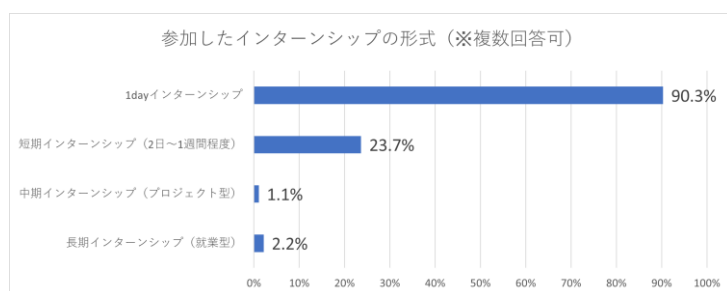
「インターンシップ参加状況」について質問したところ、「2021年夏、または冬にインターンシップに参加した」と回答した学生の割合が54.1%となり、半数以上の学生がインターンシップに参加していました。また、「インターンシップに参加した時期」について質問したところ、「2021年夏のインターンシップに参加した」が49.6%で、夏冬どちらにも参加した学生を加えると、夏のインターンシップには、7割以上の学生が参加していたことが分かります。冬のインターンシップには、約半数の学生が参加しています。企業の中には、大学3年生(大学院1年生)の冬に早期選考を実施する企業もあることから、夏のインターンシップに参加する学生が多いことが考えられます。



■参加したインターンシップの形式について

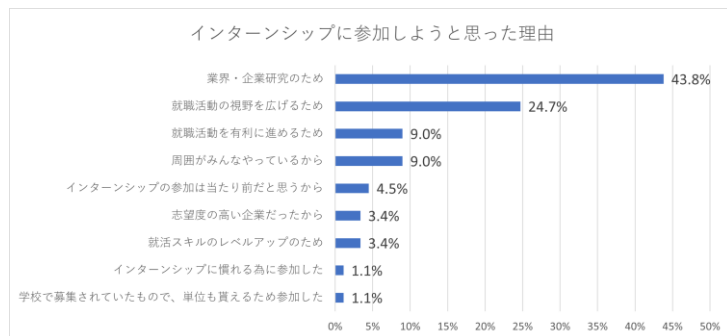
「参加したインターンシップの形式」については、約9割の学生が「1dayインターンシップ」に参加していました。次いで「短期インターンシップ(2日～1週間程度)」が23.7%となりました。

「1dayインターンシップ」は、学業やアルバイト、部活動などの様々な活動の合間に参加できる手軽さや、複数の企業のインターンシップに応募し、多種多様な業界や企業を知ることができるというメリットがあります。



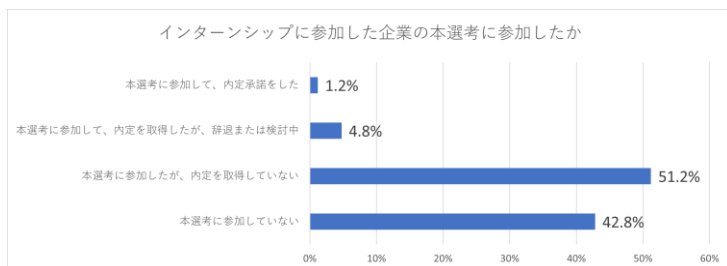
■インターンシップに参加しようと思った理由

「インターンシップに参加しようと思った理由」について質問したところ、「業界・企業研究のため」が43.8%、次いで「就職活動の視野を広げるため」が24.7%となりました。インターンシップは、就活スキルをアップするためや選考を有利に進めるためというよりは、業界・企業の特徴や仕事内容を知る情報収集の場として活用していることが分かります。



■インターンシップに参加した企業の本選考に参加したか

「インターンシップに参加した企業の本選考に参加したか」について質問したところ、「本選考に参加して、内定承諾をした」「本選考に参加して、内定を取得したが、辞退または検討中」「本選考に参加したが、内定を取得していない」など“本選考に参加した”と回答した割合は、57.2%と過半数を占めました。インターンシップへの参加が、企業の選考に応募するひとつのきっかけとなっている一方で、インターンシップに参加した企業での内定取得や内定承諾は約6%程にとどまっています。



最後までご覧いただき、ありがとうございました。少しでも貴校の就職支援の参考になれば幸いです。最後にアンケートのご協力をお願いいたします。今後のキャリアのミカタの参考にさせていただきます。率直なご意見をお寄せください。右のQRコード、もしくはURLからご回答をお願いいたします。

現在、多くの大学様から、就職支援のご依頼を受けております。お困りのことがございましたら、お気軽にお問い合わせください。最新情報や貴校に合わせた支援内容をご提供させていただきます。

キャリアのミカタアンケート
<https://forms.gle/kT65FRVdsrj1FXgk8>

